

やり投げ ルーキー アジア銀



OUHS
OSAKA UNIVERSITY OF HEALTH AND SPORT SCIENCES
スポーツ

大体育

発行責任者
大阪体育大学スポーツ局 局長 穴倉 保雄
編集長 相馬 卓司
編集助手 中村 俊志
大阪府泉南郡熊取町朝代台1-1
電話 (072) 479-3111
FAX (072) 453-8972
協力=教育後援会・学友会

第30号

100
NAMISHO GAKUEN
100th Anniversary

関西が優勝は当たり前

武本を初めて取材したのは関西インカレの時だった。1年生だが、優勝候補ナンバー1の武本は周囲の期待通り初優勝を成し遂げる。優勝後の発言に周囲は驚かされた。関西が優勝するのは当たり前か。

第18回アジアジュニア陸上競技選手権大会

6月7日〜10日/岐阜メモリアルセンター長良川競技場

世界にははたらく武本の銀のフォーム(フォート・キジモト提供)

目標「世界で戦う」

武本を初めて取材したのは関西インカレの時だった。1年生だが、優勝候補ナンバー1の武本は周囲の期待通り初優勝を成し遂げる。優勝後の発言に周囲は驚かされた。関西が優勝するのは当たり前か。

国内初開催となったアジアジュニア陸上競技選手権大会。今大会はアジア陸上競技連盟登録の35カ国・地域から予選を経て選ばれた、16~19歳までの選手が参加する国際大会であり、日本の名だたる陸上選手が世界に羽ばたくキッカケとなった大会だ。ハイレベルな大会で市立尼崎高校3年生のインターハイで優勝し、鳴り物入りで入学した女子やり投げの武本紗栄(体育1年)が54.16の記録で銀メダルを獲得する快挙を成し遂げた。

武本半端ないこと



雨の関西インカレ 表彰台ラッシュ!



関西学生陸上競技対校選手権大会T&Fの部
5月10日〜13日/西京極総合運動公園陸上競技場

悲願の初優勝と記録突破

悲願の初優勝を果たした吉野

昨年、惜しくも準優勝でインカレ標準記録突破できなかった吉野。学生ラストイヤーにかける思いは大きかった。吉野は「本言われたいです。やりました」と涙願の初優勝と、何よりもインカレの舞台への切符を手にしたことに感無量の表情を見せた。表彰式ではポットしてきた中長距離の部員たちも感動しており、まるで自分のことかのように祝福していた。吉野はポットへの恩を結果で返すことにこだわっていた。「最後の年で、みんなに支えられて大会を迎えたので、本当に結果を出したかった。やっと出ました」と最後の関西インカレで、感動と最高の笑顔を見せてくれた。

宣言どおりの大会4連覇

男子投げを長らく牽引してきた男が、最後の関西インカレで有終の美を飾った。男子やり投げ決勝は悪天候の中、2位入賞した後輩の坂本達也(体育4年)が1投目170.13超えの投げを見せたが、「自分の投げをするだけだった」と中西に焦りの表情はななく、2投目に75.77の投げを見せつけガッツポーズ。その後中西の記録を越え選手は出す、大体大のやり投げは、勝てなかったと偉業を冷静に振り返った。

関西学生陸上 大阪体育大学の受賞者一覧

- 男子やり投げ
1位 中西 啄真 (M2)
2位 坂本 達也 (体育4年)
3位 石坂 力成 (体育3年)
- 男子ハンマー投げ
1位 吉野 健太郎 (M1)
2位 中山 海斗 (体育2年)
- 男子3000メートルSC
1位 吉野 駆流
- 男子10種競技
2位 岡田大輝 (体育3年)
3位 杉本亮太 (体育3年)
- 女子やり投げ
1位 武本 紗栄 (体育1年)
2位 野下 ちはる (体育2年)
- 女子ハンマー投げ
2位 青柳 栞 (体育2年)
3位 東 滯 (体育4年)
- 女子砲丸投げ
1位 田村 満孔 (体育3年)
3位 山本 遥 (体育4年)
- 女子円盤投げ
2位 影山 絢香 (体育3年)

祝ふたりで勝ち取った結果



大会4連覇の偉業を達成した中西

岡田(右)と杉本

柔道男子

5年ぶり 全日本学生優勝大会出場

全日本学生柔道優勝大会
6月23・24日/日本武道館



惜しい場面を何度も見せたが勝利とはならなかったアンドレス ジョー (体育2年)



果敢に攻め続けた秋田浩 (体育3年)



惜しくも勝利とはならなかった古澤友基 (体育4年)

5月27日にペイコム総合体育館で開催された、関西学生柔道優勝大会の1部Bトーナメントで優勝した大団体。1部Aトーナメントへ戻ることになってしまふ。昇格しても1年で戻ったのでは意味がない。Aトーナメント定着へのキーマンはアンドレス・ジョー・ケーシー(体育2年)だ。

アンドレスは昨年1年生ながら、国際大会にも出場しており、カナダ代表として世界レベルの舞台も経験している。下級生だが、アンドレスが経験したレベルを、大団体の練習に落とし込むことで、チームとして成長できるようにしたい。

強豪復活へ



手応えを感じた選手たち

ベスト16

全日本学生柔道優勝大会
6月23日/日本武道館

体重別団体出場権獲得

一つ勝てばベスト16。体重別団体への出場権を獲得できる、好条件の2回戦から出場だった大団体。初戦は北海道代表の星椋道都大に4-0で圧勝し、念願の体重別団体の出場権を獲得した。続く3回戦では、この大会で史上初の5連覇を成し遂げた女王・山梨学院大相手に粘りの試合を見せるも、0-4で敗れた。

もう一つの土への課題



山梨学院から唯一引き分けを奪った岩本彩里 (体育2年)



大将を務め、果敢に攻めた東加珠 (体育2年)

初戦に勝って体重別団体への出場権を手に入れた大団体だが、山梨学院大との対戦に向けては、十分な内容はなかった。松田監督が「初戦は確実に取らなければいけない相手。選手は自分の持ち味を出して戦えが、5-0で勝てなかったのは残念だった」と指摘したように、格上相手と戦うには、完全勝利で波に乗った状態は良かった。試合前に「うちとしては守るべきものはないので、どこまで通用するのかわからない。切って行く」と松田監督から指示を受けた選手たちは、自らの柔道を見せようとした。それでも相手の方が一枚も枚も上手だった。力の差を感じ、しっかりと課題を手にしたことは選手たちも実感していた。東加珠(体育2年)は「日本の人に、自分



攻めの柔道でトップレベルの相手に一歩も引かなかった小岩彩力 (体育2年)

の技がかかるのか、日本人の力がどれくらいなのか知ることができ、すごくいい経験になった」と成長に向けての心意をうたった。岩本彩里(同)も「相手が強いと思った。自分と同じくらい組手が強くなれば、もっと良い戦いができると思った」と振り返った。

このレベルに勝たなければならぬ。松田監督は「選手みんながまだまだ経験不足。次級の岩本は良い場面、惜しい場面もあったけど、もう少し攻めてポイントを取り、勝てるくらいの力があると思うので、精神面でも戦えるようにして、チームの要になってほしい」と2年生に課題を呈しつつも、期待を寄せた。

7人制への思い

5人制は良かったが、昨年出場がなかった7人制の出場権を手に入れた大団体。「去年は練習として試合を見ていて、自分もあの舞台に出たいと思っていた」と岩本が話したように、選手たちは7人制に向け燃えていた。「7人制は一人階級責任を持って出場するので、自分が任された階級を絶対取れるように

したい」と東が意気込み、一人一人の階級での勝負となるため、個人個人の責任感が問われる。「7人制では4年生も含めてもう一度チームとして戦えることが大きいかなと思う」と松田監督が言うように、4年生の最後の執念やチームとしての結束力を見ることで、どこまで駆け上がるのか楽しみだ。



安定した強さを示した井原千佳 (体育3年)



初戦で圧勝した選手たち

十勇士、国内最高峰の大会に出場!

ジャパンオープン2018 5月24日~27日/東京辰巳国際水泳

水泳競技

大舞台でも力を発揮



毎年のようにベストタイムを更新する田代真子



トップ20入りを果たした女子の主将、大西迪瑠



日本選手権と並んで国内最高峰の大会である水泳のジャパンオープンに、昨年の8人を超える10人の選手が出場した。更に昨年は高順位を残すことができなかったが、今年は4000人以上の出場の大西迪瑠(体育4年)と50歳背泳ぎに出場し、自己ベストを更新した藤田紗矢香(同)の2人がトップ20に入る好成績を収めた。

トップ20入りの2人以外にも田代真子(体育3年)と福山傑(同)の2人が大舞台で、ベストを更新する活躍を見せた。昨年のジャパンオープン終了後、尾関監督は「今回のような大会上位に入り込める、トップ20泳げる選手が出てくるようにしたい」といえない、大舞台でもしっかりと期待したい。

自身のベストのパフォーマンスを出せるようにしていきたい」と話していた。昨年の大会話したことは、ほとんど達成できている。それでもあと一歩まで迫ったが、決勝や決勝に進める選手がいなかった。来年は更に上のステージにいく選手が現れることを期待したい。

男女アベック全勝優勝!

男子5季連続、女子12季連続

ハンドボール

もはや関西では負けることがないのでは…圧倒的強さを誇るハンドボール部。今年も男女ともに全勝で優勝を果たした。今大会で男子は5季連続77回目、女子は12季連続35回目の優勝で、対学生連勝記録を139に伸ばした。最優秀選手賞には原田大夢(体育4年)、中西麻由香(同)が選ばれ、優選手賞には男子が橋下駆(同3年)、堀田陽大(同2年)、女子は山本真奈(同4年)と秋山静香(同3年)が選ばれた。

昨年のリベンジと課題

男子は昨年、西日本学生で事実上の決勝戦である福岡大との準決勝で敗れ、3位という悔しい思いをした。今年はその思いを払拭し、今年も昨年試合に出たメンバーも多く残っており、リベンジに燃やした。西日本学生予選でもある春季リーグは、優勝して予選突破することは、大体大からする近いうちにしなければならない。むしろ西日本に向けて課題を追求する期間と言っても過言ではない。

今年も順当に勝利し、課題の深掘りにはまだ、目指すべきハンドボールは細くあげていく必要がある。ディフェンスで相手を抑え込むことが重要になってくることを選手たちが身を持って感じた春季リーグとなった。

2018年関西学生ハンドボール春季リーグ

4月7日～5月20日 / 桃山学院大学他

チーム作りの第一歩クリア

女子は毎年、関西のリーグではメンバーを固定せず、多くの選手を色んなポジションで使い、学生日本一、日本選手権ベスト4を目指してチーム作りが行われる。しかし、試される状況でも、絶対に崩してはいけないものがある。自分達のハンドボールを良くすること。

相手と大量に点差が開いても手を緩めることなく、目指すハンドボールに向けてオフエンス、ディフェンスするところは簡単なことではない。

気が緩んでいないと思っても、気が緩んでしまう時もある。原田大夢選手(体育4年)は「リーグ戦の序盤では相手に合わせて、チームとしてあまり良くなかった。良くなってきたのは最終節の大敵大戦の1つ前の武庫節からだ。」

優選手賞に選ばれた秋山静香(体育3年)



最優秀選手賞に選ばれた中西麻由香(体育4年)



最優秀選手賞の原田大夢(体育4年)



優選手賞受賞の橋下駆(体育3年)



シュートを決める大西健人(体育3年)

当たり負けしない体で力強いシュートを決める蔵本聖(体育2年)

大体大の絶対守護神、優選手賞の堀田陽大(体育2年)

大体大不動のセカンド服部沙紀(体育4年)

パス回し、シュートに対するの能の高さを魅せつけた相澤真(体育2年)

チームを引っ張る主将の原藤菜穂(体育4年)



ラグビー

完敗を糧に 秋リーグへ

関西大学ラグビー春季トーナメント
5月12日～7月1日 / 天理大学白川グラウンド他

感動のAリーグ復帰から半年、大体大の新シーズンは春季トーナメントから始まった。1回戦は昨年、Aリーグで全勝優勝を果たした、関西強豪の天理大。大体大は先制点を許すも、開始15分間は天理大に攻めさせず、ディフェンスでは互角に戦っていたが、前半の20分過ぎから立て続けにトライを奪われ、防戦一方の展開。試合終了まで終始攻め続けられ、最終スコア0-71で完敗した。



山下高之介(体育3年)



助田凌雅(体育3年)



入野悠斗(体育4年)



是枝啓(教育4年)

スコアだけ見れば一方的な試合だが、互角に戦っている時間があった。主将の高木来(体育4年)は「ディフェンスの部分は通用するところはあったが、先一本取られたことで、メンタルの部分で持たなかった」と先制点を許してから、メンタル面で負けていたと振り返った。大体大の前半の入りはよく、ディフェンスの面で粘っていたのは大きい。先制されたから得点を取りに狙ったが、点を取りたいタイミングで取れなかったことが大差をつけた原因となった。課題、通用したところがハッキリした試合でもある。高木一課題は中盤で無理に攻めてミスすること。それと今日は試合前に、勝負事は覚悟と、それだけ我慢できるか、という話をしたけど、天理に勝つ覚悟を全員が持っていない。技術の面でも秋までに一人一人が勝てるレベルに持っていく。試合内容を冷静に分析し秋までのレベルアップを誓った。

体操競技

男子団体12年連続優勝 女子団体準優勝

関西学生体操選手権大会(体操競技の部)
4月22日/シエイトアリーナ奈良

昨年、女子が1部に返り咲いた、体操競技部のシーズン初戦である、関西学生選手権が行われた。男子は団体では、関西敵なしの力で、12年連続優勝。個人総合でも上位8人のうち7人を大団体が占め、加藤大貴(体育2年)が優勝を果たした。女子団体は負傷者の影響などもあり万全の演技とはいかなかったものの、全国でも1、2位を争う武庫川女子大に続く準優勝に輝いた。

チームの土台を作る時期

男女ともに夏のインカレに向けて高い目標を設定し、メンバーが中心なので、調整のシーズン初めの関西インカレに時間がかからないかと思わ

れが実際は違った。試合は順位も内容が良くなかった。昨年の主力メンバーは異なるレベルアップを図っているという理由があった。男子主将の鈴木秀(体育4年)が「点数を取らないといけない人が失敗している。それでもまた、これから強くなりたいことを思います」と言うように、チーム作りの初期段階であり、個人のレベルアップの時期であることが伺えた。むしろ昨年よりも、今年大会でチームの土台を固めようとしているのではないかと期待を寄せられた。夏までこれだけ成長できるか、体操競技部への期待は膨らむ。



唯一の4年生で主将の鈴木秀(体育4年)



安定した演技でチームを牽引した主将の竹内友美(体育4年)



平行棒のスペシャリスト高島康平(体育3年)



平均台のフィニッシュをしっかりと決めた中村優月(体育3年)



あん馬で高得点の上田颯(体育2年)



期待のルーキー上田海世(体育1年)



跳馬で高得点を出した今西明(体育2年)

Happy Faces



大阪体育大学



成長著しい期待の2年生赤塚晴菜(体育2年=写真上)と飛山紗希(体育2年=写真下)

2年目で更なる輝きを

チーム全体として課題が残る内容だったが、加藤大貴(2年)がひとり圧巻の演技を見せた。加藤は、今日自分持っている力を全部出したので、良い試合ができた。



圧巻の演技を見せ、個人総合優勝をとった加藤大貴(体育2年)

2年目で更なる輝きを。自分力を発揮できるようにしたい。と昨年との違いについて自信たっぷりに話した。後輩が、試合になれた2年目で更なる輝きを放つだろう。

女子団体3位入賞

西日本学生体操選手権大会
5月26・27日/北九州市立総合体育館



1年生らしく勢いのある演技を見せた常岡晴々子



女子団体メンバー



男子団体メンバー

女子 昨年の悔やしさを晴らす

女子団体は昨年4位という結果だったが、今年は一つでも順位を上げ、メダル獲得への意欲に燃えていた。干す竹谷清花(体育3年)が不在の中、粘りの演技を見せ、3位を獲得した。それ

で、個人総合、個人種目別と奮闘はしたが、団体メンバー全員が平均して高得点を出し、2位・中京大にわずか0.5点差に迫る演技を見せ、3位を獲得した。それを

今年女子団体の目標は「全日本インカレで、団体全日本総合の出場権を獲得することだ。主将の竹内友美(同4年)は、段違い平行棒、平均台と器具に入った時にミスが出て雰囲気が悪くなった。課題が多く残る試合だったが、目標にはまた違いないと自覚していた。

男子 最低ラインはクリア

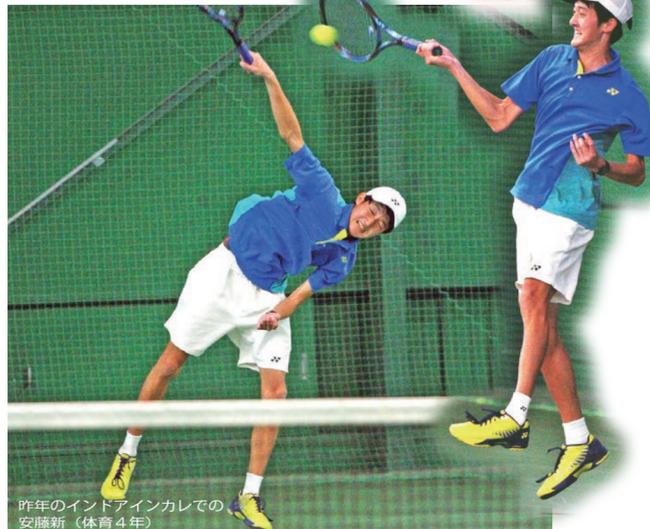
男子団体は惜しくも入賞とはならなかったが、最低ラインと考えていた得点はクリアし、インカレ出場権を獲得した。また、加藤大貴(体育2年)は、1部上位校に食らいつく活躍で、個人総合13位に付けた。インカレ出場権を獲得した。加藤が関西学生西日本大会連続で安定した強さを見せたこと、一応の収穫といえる。主将の鈴木秀(同4年)は「順位、得点共にダメでしたが、目標はインカレで2部優勝して1部復帰することなので、絶対に次に付けない」と大空の反省点、収穫を踏まえ、真っ直ぐ目標だけを見つめていた。

安藤2年連続、徳光は初のインカレ出場権獲得

男子硬式テニス



昨年の入れ替え戦での徳光翔馬(体育4年)



昨年のインドインカレでの安藤新(体育4年)

関西学生春季テニストーナメント本戦 兼 全日本学生テニス選手権選考会(インカレ) 4月28日~5月27日 ITC朝テニスセンター他
インカレ予選である関西春季トーナメントで安藤新(体育4年)がベスト16、徳光翔馬(同4年)がベスト32に入り、安藤はインカレ本戦から、徳光は予選からの出場権を獲得した。

インカレ出場権の価値

関西地区からインカレに出場できるのは、春季トーナメントに出場している570人のうち、勝ち抜いた24人。春季トーナメントは予選で4ないしは回勝ち抜き、40人で行われる本戦から、インカレ出場権をかけた戦いが始まる。インカレ出場権を獲得することが、大きな価値があることがわかる。厳しいトーナメントを勝ち抜き、24人に入るとは平気なことではなく、団体スポーツとは違った厳しさがある。その厳しい戦いを勝ち抜き、安藤は2年連続、徳光は4年目最後の年にして、初の出場権を獲得した。安藤、徳光ともに最後の年だけに関東勢にアップセットを演じたい。

男子 硬式野球

あわや2部落ち、残った、残った

2018年度阪神大学野球連盟春季リーグ

4月7日～5月28日 / 南港中央野球場

2015年の優勝以来、春季リーグでは下位を占めていた阪神大だが、今年は更なる試練を迎えた。伝統の大規模野球部が試合でわずかに勝つことができず、勝ち点を争うことができないまま、リーグ戦を終えた。周囲では「まさかの部降格があるのでは」と不安が囁か

競争激化は必至

2015年の優勝以来、春季リーグでは下位を占めていた阪神大だが、今年は更なる試練を迎えた。伝統の大規模野球部が試合でわずかに勝つことができず、勝ち点を争うことができないまま、リーグ戦を終えた。周囲では「まさかの部降格があるのでは」と不安が囁か



成長期待の左打者 熊谷航 (体育2年)



勝田紘 (体育4年)



小川祐 (体育3年)



出雲勇 (体育3年)

秋から巻き返しへ



イニング間で陣を組む選手たち

女子 軟式野球

目指すは全国優勝

リーグ準Vでは終わらない

5月27日～6月24日 大阪芸大

選手が目標を決めた。全関西地区大会で優勝した。選手たちの気持は、いつもと違う。何が何でも優勝して優勝を飾り、その勢いで全国大会への筋立ては出来ていない。対関西大会、エースで主将の杉野未来 (教育4年) が先発、落るボールと直球

選手の目標が決まった。全関西地区大会で優勝した。選手たちの気持は、いつもと違う。何が何でも優勝して優勝を飾り、その勢いで全国大会への筋立ては出来ていない。対関西大会、エースで主将の杉野未来 (教育4年) が先発、落るボールと直球



準優勝した軟式野球女子



好投する杉野 (教育4年)

この悔しさバネに
「次は武庫女大、絶対勝つぞ」と杉野主将がチームを鼓舞した。選手たちは悔しさがあふれ出ていた。関西を制覇して全国大会への目論見が崩れた。2日後にコーチ選手全員参加でミーティングを開いた。リーグ戦の反省はもういいが、活発に意見を述べていく。この悔しさバネを全国大会の目標は優勝と全員の考えが一つになった。創部1年目。大坂大ブレイブは昨年全国大会の初戦敗退から、一気に頂点を目指す。



表彰台上の前衛 (右から2人目)

黒崎コトは、2年前までレズリングの多門、福岡大コーチ兼任選手としており、20歳の若手指導者として、指導力が期待されている。前衛は3位入賞に素直に「うれしい」と相手を前した。チームはいいが、前衛の活躍はチーム全体の活力につながり、チーム力も底上げされるはずだ。

レスリング

ルーキー前衛、デビュー戦で3位

西日本学生レスリング新人選手権大会

6月30日～7月1日 堺市立金岡体育館

学生レスリングの登壇門、西日本新入戦で、入学して3カ月の前衛選手 (体育1年) が、グレコローマンスタイル67kg級3位入賞を果たした。大坂大前衛は柔道をしており、いわば「素人レスラー」が表彰台に上がる快挙を演じた。20年の東京五輪・パラリンピックに出場できるかどうかは未定だが、関係者は24年の五輪に期待を寄せている。

前衛は大坂大前衛では柔道部で活躍していたが、担任のレスリング部顧問、西尾直之が自身のレスリング経験から「大学ではレスリングをしないか」と勧められた。レスリングとの出会いだった。本学の短肢文博コト、本学職員、00年卒、トレーニ

の強さがあり、勝負勘が生かされている。真面目で、目標を決めた。直線に向ってこそ、これからは伸びる要素と鑑定する。本学レスリング部からはロサンゼルス五輪 (1984年) にフリースタイル100kg級に石森宏一 (1985年卒) が出場、世界の強豪相手に7位入賞、大坂大前衛でレスリングを、国体館大に進んだ松本さん、ミュンヘン五輪 (1972年) に出場している。特に石森さんの活躍は、大学の後輩たちに大きな財産と目標を残した。チームはいいが、前衛の活躍はチーム全体の活力につながり、チーム力も底上げされるはずだ。



期待の新人

サヨナラ負けも、堂々の準優勝!

女子 硬式野球

関西圏にある高校、大学、社会人のアマチュア21チームで行われる、女子硬式野球関西選手権大会。今年も、大坂大Aチームが準優勝を果たした。今大会は、ほとんどの試合に先発した横井晃投手 (体育4年) が優秀選手賞を受賞した。

大坂大Aは初戦から決勝戦までの4試合で合計36得点、1試合平均9得点という驚異



準優勝した女子選手たち



優秀選手賞を受賞した横井晃 (体育2年)

1試合平均9得点の打線



打撃で活躍し活躍する (教育4年)



さあ行くぞ、ダッシュする選手たち

第9回関西女子硬式野球選手権

4月21日～6月3日 履正社スポーツ専門学校大阪校

各種競技記録

(順不同)

- 【男子】
 - ▽第1試合 大坂大 13-2 大阪大
 - ▽第2試合 大坂大 13-3 和歌山
 - ▽第3試合 大坂大 13-9 びわこ成蹊大
 - ▽第4試合 大坂大 11-9 バテイス
 - ▽第5試合 大坂大 13-10 龍谷大
 - ▽第6試合 大坂大 13-10 龍谷大
 - ▽第7試合 大坂大 13-10 龍谷大
 - ▽第8試合 大坂大 13-10 龍谷大
 - ▽第9試合 大坂大 13-10 龍谷大
- 【女子】
 - ▽第1試合 大坂大 5-0 京都大
 - ▽第2試合 大坂大 2-3 関大
 - ▽第3試合 大坂大 3-2 大阪成蹊大
 - ▽第4試合 大坂大 3-2 大坂大
 - ▽第5試合 大坂大 3-2 大坂大
 - ▽第6試合 大坂大 3-2 大坂大
 - ▽第7試合 大坂大 3-2 大坂大
 - ▽第8試合 大坂大 3-2 大坂大
 - ▽第9試合 大坂大 3-2 大坂大
- 【男子】
 - ▽第1試合 大坂大 11-5 チェック
 - ▽第2試合 大坂大 8-9 キングス
 - ▽第3試合 大坂大 4-1 キングス
 - ▽第4試合 大坂大 4-1 キングス
 - ▽第5試合 大坂大 4-1 キングス
 - ▽第6試合 大坂大 4-1 キングス
 - ▽第7試合 大坂大 4-1 キングス
 - ▽第8試合 大坂大 4-1 キングス
 - ▽第9試合 大坂大 4-1 キングス
- 【女子】
 - ▽第1試合 大坂大 2-3 甲南大
 - ▽第2試合 大坂大 4-1 佛大
 - ▽第3試合 大坂大 3-2 大坂大
 - ▽第4試合 大坂大 3-2 大坂大
 - ▽第5試合 大坂大 3-2 大坂大
 - ▽第6試合 大坂大 3-2 大坂大
 - ▽第7試合 大坂大 3-2 大坂大
 - ▽第8試合 大坂大 3-2 大坂大
 - ▽第9試合 大坂大 3-2 大坂大
- 【男子】
 - ▽第1試合 大坂大 13-2 大阪大
 - ▽第2試合 大坂大 13-3 和歌山
 - ▽第3試合 大坂大 13-9 びわこ成蹊大
 - ▽第4試合 大坂大 11-9 バテイス
 - ▽第5試合 大坂大 13-10 龍谷大
 - ▽第6試合 大坂大 13-10 龍谷大
 - ▽第7試合 大坂大 13-10 龍谷大
 - ▽第8試合 大坂大 13-10 龍谷大
 - ▽第9試合 大坂大 13-10 龍谷大
- 【女子】
 - ▽第1試合 大坂大 5-0 京都大
 - ▽第2試合 大坂大 2-3 関大
 - ▽第3試合 大坂大 3-2 大阪成蹊大
 - ▽第4試合 大坂大 3-2 大坂大
 - ▽第5試合 大坂大 3-2 大坂大
 - ▽第6試合 大坂大 3-2 大坂大
 - ▽第7試合 大坂大 3-2 大坂大
 - ▽第8試合 大坂大 3-2 大坂大
 - ▽第9試合 大坂大 3-2 大坂大

窓

◆今もこぼれ落ちて... サッカーワールドカップ (W杯) ロシア大会の、日本チームの10分間のボール回し。グループ戦最終の対オーストラリア戦で、日本は0-1で負けたが、セネガルが採用されたフレイムボールで決勝ゴールを決めた。西野監督は、リスタが少ないボール回しに「これは、いい」と言っている。西野監督は、リスタが少ないボール回しに「これは、いい」と言っている。西野監督は、リスタが少ないボール回しに「これは、いい」と言っている。

